

まな星クリニック：岡山県

報告者 中島洋子

クリニック開設の理念(2006.7～)

幼児から青年期の自立までの切れ目のない支援

① 発達障害支援の機能を充実する、

- 早期介入→早期評価・早期診断に基づく支援→健康度の高い生活→自立
- 治療教育(IEP)にもとづく早期療育→特別支援教育→就労支援(働ける人に)
- 二次障害予防(親支援、障害特性への各種支援)
- 併存障害と精神科問題に対する早期介入と早期治療

② 地域の関係機関との連携の中で、ライフステージ支援を行う

- ⇒乳幼児から、青年期の自立までの切れ目のないメンタルヘルス支援
- 自立のために、いつでも相談できる機能(一貫性)の必要性
- ⇒児童精神科医療と教育・福祉の連動した支援(岡山モデルの実践)

③ 児童精神科クリニックとして持つべき機能

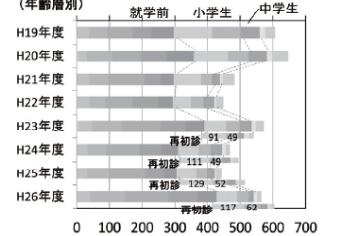
- 診療機能(診断・アセスメント・薬物治療と心理教育・親ガイダンス)
- 医療・療育連携モデルによる早期療育
認知障害仮説からの応用、発達の(リ)ハビリテーション
- 併存障害への早期介入と薬物治療
- 教育への移行支援、就労・地域生活への移行支援(相談支援)
- 親支援(発達障害児を育てているストレス・親自身の問題への支援)



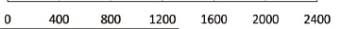
まな星クリニック 開設:2006年7月

クリニック機能(H18.7～) 診断・アセスメント・ 障害ガイダンス 児治療・親支援 児童精神科 3診体制の診察 心理検査部門 リハビリテーション(ST・OT) 地域連携部門	(常勤職員 35人) 医師(3+1)、 PSW(1) PHN(1) ST(5)、OT(3) 心理(2) 医療・事務(5)
児童発達支援事業(H18.10～) ⇒児童発達支援センター(H27.12～) 一日定員24人 心理・保育士・指導員チームに よる小集団療育 保育園訪問相談支援	心理(5) 保育士(4) OT(1)、 指導員(1) 事務(1)
相談支援事業(H26.12～) 障害児相談、計画相談	PSW(2)
青年期支援部門(対象はASD) 地域活動支援センター(H23.1～) (ひきこもり支援) 多機能型事業所(H26.12～) (就労移行支援)	PSW(1)、心理(1) 社会福祉士(1) 保育士(1) 支援員(1)、 指導員(1)

新規ケースの受診動向



年間実受診者数(H26年度1年間) n=2,366



療育形態(H27年9月)	実人数
言語聴覚療法	209
作業療法	91
心理・保育士による小集団 母子Gr:4 (1/1w) 2才Gr:2 (1/2w) 3才Gr:7 (1/2w) 4才Gr:11 (1/2w) 5才SSGr:20 (1/2w)	289